

教科名	国語	科目名	国語総合（現代文分野）	履修クラス	1年全クラス	
				担当者		
使用教科書		「国語総合 改訂版 現代文編」 大修館書店			履修単位数	2
副教材等		「新訂国語図説 五訂版」（京都書房）「入試頻出漢字 TOP 2500 三訂版」（いっぴな書店）「改訂版 評論速読トレーニング 1000」（数研出版）「新演習現代文7チーフ 1 四訂版」（桐原書店）				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
論理的な文章では、叙述に即して内容を的確に読み解き、筆者の主張を論理的に把握する。 文学的な文章では、人物、情景、心情を表現に即して読み味わい、豊かな心情や感性を養う。	学期中の中間考査、期末考査、学年末考査、授業内の小テスト、提出物等の成果、授業に対する意欲を総合的に判断し、評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 11	評論「富士山の形」	<ul style="list-style-type: none"> 知らぬうちにとらわれている固定概念のことなどを認識する。 筆者の感性に触れ、新たなものの捉え方を知る。 論理の展開や要旨を的確に捉え、筆者の主張を読み取る。 水に対する東西の感性の違いを理解し、日本文化の特性を知る。
5		評論「水の東西」	
6	期末考査まで 10	小説「羅生門」	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心理の変化を読み取り、小説のおもしろさを知る。 人間のあり方について考察し、主人公のその後について想像力を働かせて考える。 表現、表情の事例からどのように論が展開されるのかを的確につかむ。 筆者の主張、筆者の捉え方を読み取る。 詩を読み味わい、言葉の感性を磨く。
7		評論「人は独創的でありたいか」 詩	
9	中間考査まで 11	評論「空気を読む」	<ul style="list-style-type: none"> 他者の意見を忖度して自己を見失うことさえある現代人のあり方か考え、自己の確立の端緒とする。 コミュニケーションについての論理的な文章を読むことを通して、現代を捉え直す目を養う。 登場人物の置かれている状況と、心情の変化を的確に読み取る。 文章の表現の特徴や比喩表現の効果について考える。
10		小説「セメント樽の手紙」	
11	期末考査まで 13	小説「夢十夜」	<ul style="list-style-type: none"> 非現実的な世界に隠れた隠喩を読み取り、文学の豊かな世界を味わう。 漱石が意識した明治時代の社会の問題点を読み取る。 小説の時代背景や状況をつかみ、人物・情景・心情を的確に捉える。 古典的なものから現代のものまで、修辞を中心に読解する。
12		短歌・俳句	
1	学期末考査まで 10	小説「富岳百景」	<ul style="list-style-type: none"> 表現上の特色と効果を捉え、作風の特徴をつかみ、作品を味わう。 作者の得た死生観に基づいて、自身の死生観を考える。 論理の展開や要旨を的確に捉え、筆者の主張を読み取る。 言葉について自らの意見を持ち、現代社会のあり方について考察する。
2		評論「言葉についての新しい認識」	
3			

担当者からのメッセージ（授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等）
<p>① 現代文の文章には、随想・評論・小説・詩や短歌・俳句、様々なタイプがあります。どの作品に対しても本気で向き合い、自分の考えを深めることが大切です。</p> <p>② 読書の習慣を通して、適切な文章表現を、常に自分の中に入れておかないと、文章表現能力や、読解力を高めることは不可能です。積極的に本を読むことを勧めます。自分の好きな分野の本でいいです。読書習慣を身につけ、高校時代に自分の生き方のヒントをつかんで下さい。</p> <p>③ 漢字や意味調べ、読解の予習の自学自習は、自分で工夫して、こつこつと行って下さい。</p>

教科名	国語	科目名	国語総合（古典分野）	履修クラス	1年全クラス	
				担当者	上野・山口・上杉	
使用教科書		「国語総合 改訂版 古典編」 大修館書店			履修単位数	3
副教材等		「新訂国語図説 五訂版」（京都書房）「つながる、まとまる古文単語 500PLUS」（いづな書店）「基礎から解釈へ漢文必携 4訂版」（桐原書店）「基礎から解釈へ漢文必携チェックノート基本編 4訂版」（桐原書店）「完全マスター古典文法 新訂5版」（第一学習社）「完全マスター古典文法 準拠ノート基礎固め」（第一学習社） 「古典速読トレーニング入門」（数研出版）				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
古典に対する興味・関心を高め、思考力を伸ばし心情を豊かにする。古典常識や古典文法の基礎基本の定着を図り、人物の心理、情景などを理解する。	学期中の中間考査、期末考査、学年末考査、授業内の小テスト、提出物等の成果、授業に対する意欲を総合的に判断する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 14	説話「児のそら寝」「絵仏師良秀」	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣い、音読のしかた ・古語辞典の引き方 ・文節、品詞、単語など文法の基礎事項、動詞の活用 ・説話文学や古典常識。以上の理解
5			
6	期末考査まで 14	・随筆『徒然草』 ・漢文入門 故事成語	<ul style="list-style-type: none"> ・用言（形容詞、形容動詞）の活用 ・随筆の理解、作者についての理解、古典世界を味わう ・音読し、漢文の口調に慣れ親しむ ・訓読の決まりを理解する。 ・漢和辞典の引き方
7			
9	中間考査まで 16	『竹取物語』 「なよ竹のかぐや姫」 『伊勢物語』 「芥川」	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の音読、口語訳を通じて、古文に親しむ ・用言（動詞、形容詞、形容動詞）の定着 ・助動詞の基礎 ・和歌を味わい、歌物語を理解する
10			
11	期末考査まで 18	・同「あづま下り」「筒井筒」 ・古代の史話	<ul style="list-style-type: none"> ・用言（動詞、形容詞、形容動詞）のまとめ ・助動詞の理解 ・和漢混淆文の韻律に注意し、朗読する ・それぞれの史話の歴史・背景を理解する ・史話の面白さに気づき、興味・関心を深める
12			
1	学期末考査まで 16	・『土佐日記』 「門出」「帰京」 ・『唐代の詩』	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的流れを理解し、人間のあり方について考えを深める ・日本で最初の仮名日記文学の表現を味わう ・朗読・暗唱を通して漢詩の精神に親しむ ・作者の人間観・自然観について理解する
2			
3			

担当者からのメッセージ （授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等）
① 古典を読むことで、日本の歴史や文化・伝統への関心が深まり、自分自身のものの見方・考え方が広がっていき、人生が豊かになります。
② 古典を読むためには、古典文法、古典単語、古典常識を理解し、自分で文章読解を進めていく必要があります。日々の予習、復習を着実に積み重ねてください。
③ 古典の予習の自学自習は、自分で工夫して時間を見つけて、しっかりとノート作りをすることが大切です。毎回、予習して授業を受けることを確実に身につけて下さい。

教科名	数学	科目名	数学 I	履修クラス	1 年全クラス	
				担当者		
使用教科書		改訂版 高等学校 数学 I (数研出版)			履修単位数	3
副教材等		改訂版 4プロセス数学 I +A 新課程用 (数研出版)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
科学技術の基礎である高校数学のもっとも基本的な部分を学習し、数学的な感覚を養うとともに、大学受験に向けた発展的内容にも対応できる学力つける。	<ul style="list-style-type: none"> ● 定式に沿って、単純に発想するのではなく、自由な発想で問題解決に取り組む者も評価する。 ● 出席状況、平常の学習態度を考慮して、個々の能力を適正に評価する。 ● 個々の問題にとらわれず、問題を通して基礎概念を深く理解しているかを観る。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査 まで18	第1章 数と式 ・式の計算・実数 ・1次不等式	<ul style="list-style-type: none"> ● 整式の取り扱い・因数分解の習得と応用 ● 実数・有理数・無理数などの概念を理解する ● 根号を含む式の計算の修得 ● 2重根号の計算も扱う ● 1次不等式の解法の修得と応用 ● 絶対値と場合分けの問題も扱う
5			
6	期末考査 まで21	第2章 集合と命題 第3章 2次関数 ・2次関数とグラフ ・2次関数の値の変化	<ul style="list-style-type: none"> ● 集合/部分集合、共通部分と和集合、補集合 ● 命題と条件/必要条件と十分条件 ● 命題の逆・裏・対偶・背理法 ● 2次関数の意味とそのグラフを理解する ● グラフの応用として、関数の最大値・最小値を求める ● 様々な条件から2次関数を決定する
7			
9	中間考査 まで21	・2次方程式と2次不等式 第3章 図形と計量 ・三角比	<ul style="list-style-type: none"> ● 2次方程式の解の公式・解の判別とその応用 ● 2次関数と2次不等式との関連について理解する ● 2次不等式の解法の修得 ● 直角三角形の相似と三角比の基礎を学ぶ ● 三角比の実世界への応用
10			
11	期末考査 まで21	・三角形への応用	<ul style="list-style-type: none"> ● 三平方の定理と、三角比の相互関係を学ぶ ● 正弦定理・余弦定理を用いて、辺の長さ・角の大きさなどを求める方法を修得する
12			
1	学年末考査 まで24	・三角形への応用 第4章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> ● 空間図形への応用 ● データの読み方、整理の仕方、傾向の捉え方を学ぶ ● 一年間のまとめ
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<ul style="list-style-type: none"> ● 2クラス3展開で授業を行います。クラス編成は発展(1)・標準(2)で、クラス分けは学期ごとに行います。 ● 教科書の予習・復習を必ず行い、問題集の例題・問題で根気強く学習内容の定着を図るようにしてください。(予習を中心に毎日1時間勉強しましょう。予習・復習の際は、教科書・ノートを眺めるだけでなく、必ず紙とペンを用意し、自ら計算を行いましょう。宿題や副教材の問題に取り組みましょう。) ● 基礎概念を根本から理解して、公式を活用できるようにします。 ● 宿題や提出物などは期日厳守で提出しましょう。 ● 長期休業中の補習等には積極的に参加しましょう。 ● 受験を目指すものは参考書(チャート式・フォーカスゴールドなど)の購入が望ましいです。

教科 科 名	数学	科 目 名	数学A	履修クラス	1年全クラス	
				担 当 者		
使用教科書		改訂版 高等学校 数学 A (数研出版)			履修 単位数	2
副教材等		改訂版 4プロセス数学 I +A 新課程用 (数研出版)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<p>数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方のよさを積極的に活用する態度を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 例題や問題ができただけでなく、数学に対して想像力を発揮し、独創的な考え方取り組むものも評価する ● 定期テストはもちろん、出席状況や平常の学習態度宿題の提出や小テスト類なども評価の対象である。

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 1 2	第 1 章 場合の数と 確率	<ul style="list-style-type: none"> ● 集合の要素の個数 ● 場合の数 ● 順列 ● 組合せ, 重複を許して作る組合せ
5			
6	期 末 考 査 ま で 1 4	第 1 章 場合の数と 確率	<ul style="list-style-type: none"> ● 事象と確率 ● 確率の基本性質 ● 独立な試行の確率 ● 条件付き確率 ● 原因の確率
7			
9	中 間 考 査 ま で 1 4	第 3 章 整数の性質	<ul style="list-style-type: none"> ● 約数と倍数 ● 自然数と最大公約数・最小公倍数 ● 整数の割り算と商・余り
10			
11	期 末 考 査 ま で 1 4	第 3 章 整数の性質	<ul style="list-style-type: none"> ● ユークリッドの互除法 ● 一次不定方程式 ● 分数と小数 ● n進法
12			
(12) 1	学 年 末 考 査 ま で 1 6	第 2 章 図形の性質	<ul style="list-style-type: none"> ● 三角形の辺の比 ● 三角形の重心・内心・外心・垂心・傍心 ● メネラウスの定理とチェバの定理 ● 円に内接する四角形 ● 円と直線 (接線と弦の間の角) ● 方べきの定理 ● 2つの円 (共通接線), 作図 ● 直線と平面 ● 空間図形と多面体 (オイラーの定理)
2			
3			

<p>担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)</p> <p>2クラス3展開で授業を行います。クラス編成は発展(1)・標準(2)で、学期ごとにクラス分けを行います。教科書の予習・復習を必ず行い、問題集の例題・問題で根気強く学習内容の定着を図るようにしてください。(予習を中心に毎日1時間勉強しましょう。予習・復習の際は、教科書・ノートを眺めるだけでなく、必ず紙とペンを用意し、自ら計算を行いましょ。宿題や副教材の問題に取り組みましょ。)</p> <p>基礎概念を根本から理解して、公式を活用できるようにします。</p> <p>宿題や提出物などは期日厳守で提出ましょ。</p> <p>長期休業中の補習等には積極的に参加ましょ。</p> <p>受験を目指すものは参考書(チャート式やフォーカスゴールドなど)の購入が望ましいです。</p>

教科名	英語	科目名	English Communication I	履修クラス	1年全クラス	
				担当者		
使用教科書		LANDMARK Fit English Communication I (啓林館)			履修単位数	4
副教材等		・ WORKBOOK Standard (啓林館) ・ Word Navi3000 (啓林館)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
Reading・Speaking・Listening・Writingの4技能をバランスよく学び、多読も取り入れながら英語と親しんで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	定期考査・長期休業明けの学力診断テスト・小テスト・提出物・英会話や多読を含む授業への取り組み状況などを総合的に判断し、評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 24	Lesson 1 Lesson 2 Communication I S	What Can Blood Type Tell Us? Curry Travels around the World スピーチ・作文などの活動
5			
6	期末考査まで 28	Lesson 3 Lesson 4 Communication I S	School Uniforms Gorillas and Humans スピーチ・作文などの活動
7			
9	中間考査まで 28	Lesson 5 Lesson 6 Communication I S	“gr8” or great? Biodiesel Adventure スピーチ・作文などの活動
10			
11	期末考査まで 28	Lesson 7 Lesson 8 Communication I S	Eco-tour in Yakushima Mariko Nagai, Super Interpreter スピーチ・作文などの活動
12			
1	学年末考査まで 32	Lesson 9 Lesson 10 Communication I S	Space Elevator Friendship over Time スピーチ・作文などの活動
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<p>中学校の英語に比べて文章量が増え、進むペースも速くなります。音読やペアワーク・グループワークなどの活動もあるので積極的に取り組みましょう。毎日続けることで実力がつきます。前向きな気持ちで取り組んでください。授業の前後で、力がつく自学自習を行っているか確認・工夫しながら、自分に合った学習方法を見つけましょう。副教材(ワークブック等)は、ただ問題を解き答えを直すだけでなく、なぜ間違えたか?次にまた解く時にはどうすれば間違えないか?そのためにどのような基本的または応用的な力が必要か?それを身につけるために毎日の学習をどうすべきか?常にそれを意識しながら、授業中および教員への個別の質問の時間なども最大限に有効活用してください。Good Luck!</p>

教科名	英語	科目名	English Expression I	履修クラス	1年全クラス	
				担当者		
使用教科書	EMPOWER English Expression I ESSENTIAL (桐原書店)			履修単位数	2	
副教材等	総合英語 EMPOWER ESSENTIAL COURSE (桐原書店) EMPOWER ENGLISH EXPRESSION I ESSENTIAL COURSE Workbook (桐原書店) Scramble Basic (旺文社)					

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
文法事項の基本的な内容を理解し、辞書・参考書等を使いこなし、英文を正確に理解できる力を養う。また、既習の文法事項を使って、英文を聞き取ったり、自分の意見や考えを簡単な文章で表現できるようにする。	定期考査・長期休業明けの学力診断テスト・小テスト・提出物・音読や問題演習を含む授業への取り組み状況などを総合的に判断し、評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 12	Grammar Focus 1~5	英語の基本構造、文の構造、時制、 Grammar Focus1~5
5			
6	期末考査まで 14	Grammar Focus 6~12	完了形、助動詞、受動態 Grammar Focus6~12
7			
9	中間考査まで 14	Grammar Focus 13~18 Scramble Basic	不定詞、動名詞、分詞 Grammar Focus13~18 1~3章
10			
11	期末考査まで 14	Grammar Focus 19~24 Scramble Basic	分詞、分詞構文、比較、関係詞 Grammar Focus19~24 4~6章
12			
1	学年末考査まで 16	Grammar Focus 25~27 Scramble Basic	関係詞、仮定法 Grammar Focus25~27 7,8章
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
1 学年の『英語表現 I』は、高校で学ぶ英文法の 90%以上を 1 年間で習得する授業です。英語の言葉のルールを理解し、その理解を定着させるために演習問題を中心に行います。答えを覚えるだけでは意味をなしません。「この問題は英文法のここの知識をこういう形で求められている」、ということを確認しながら問題には取り組んでください。また、参考書を活用するので授業で忘れないこと。この 1 年間の学習内容は英語の基礎であり、かつ入試でも問われる知識だと理解して、真剣に授業に臨んでください。

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	履修クラス	1年全クラス	
				担当者		
使用教科書		「新版 世界史A」実教出版			履修単位数	2
副教材等		「グローバルワイド 最新世界史図表」第一学習社				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
近現代史を中心に、世界史の大きな流れと特質を理解し、現代の諸問題との関係を理解する。特に近代から現代にかけての歴史的意義をよりよく理解するために諸地域の特質を把握する。	定期考査の成績を基本に、ノート・プリントの書き方や提出状況、質問や指示に対して積極的に取り組むなどの授業に取り組む姿勢を加味して総合的に評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 11	一体化のはじまりとヨーロッパの主権国家	<ul style="list-style-type: none"> ・大航海時代 ・ルネサンス ・宗教改革 ・主権国家体制の形成
5			
6	期末考査まで 12		<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン絶対主義 ・オランダの独立と繁栄 ・フランスの絶対主義 ・イギリス革命とイギリス議会政治の確立 ・東ヨーロッパの専制（ロシア、プロイセン、オーストリア）
7			
9	中間考査まで 11	ヨーロッパ近代の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ列強の植民地争奪戦と大西洋経済の成立 ・産業革命 ・啓蒙思想 ・アメリカ独立革命
10			
11	期末考査まで 12		<ul style="list-style-type: none"> ・フランス革命 ・ナポレオンとその時代 ・ウィーン体制とその崩壊（ウィーン体制、七月革命、二月革命、社会主義思想の成立ほか）
12			
1	学年末考査まで 14	欧米国民国家の発展	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシアの改革 ・イギリスの繁栄とフランス第3共和政成立 ・イタリアとドイツの統一 ・ビスマルク体制 ・アメリカ合衆国の発展 ・1年間のまとめ
2			
3			

担当者からのメッセージ（授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等）
<p>歴史的な事項の定着を図るために、また興味・関心を高めるため、いつも歴史地図や図版・写真を参照・利用することを心がけましょう。授業で扱った内容について、自身で調べてみることも有効です。</p> <p>板書事項だけでなく、授業のポイントや補足事項を書き留めるなどして、自分自身が理解しやすいノート作りを心がけて下さい。</p> <p>家庭では、復習と定期考査・小テスト前の学習に積極的に取り組んで下さい。</p>

教科名	地理歴史	科目名	地理 A	履修クラス	1 年全クラス	
				担当者		
使用教科書		新地理 A (帝国書院)			履修単位数	2
副教材等		新詳地理資料集 (帝国書院)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
地理的な見方・考え方を身に付けるとともに、持続可能な社会づくりを目指し、現代の地理的な諸課題を考察できる力を養う。	定期考査、小テスト、課題提出

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 1 2	地球儀と地図	<ul style="list-style-type: none"> 地球儀や地図からとらえる現代世界（経度緯度、世界地図の種類、時差国家と国境） 世界の諸地域の生活・文化の多様性（自然環境） 中間考査 課題の提出
5		世界の自然環境と文化	
6	期末 考査 まで 1 4	世界の諸地域の生活と文化	<ul style="list-style-type: none"> 世界の諸地域の生活・文化の多様性（東南アジア） 期末考査 課題の提出
7			
9	中間 考査 まで 1 4	世界の諸地域の生活と文化	<ul style="list-style-type: none"> 世界の諸地域の生活・文化の多様性（ヨーロッパ） 地球的課題の地理的考察（人口問題、食料問題） 中間考査 課題の提出
10			
11	期末 考査 まで 1 4	地球規模で広がる課題	<ul style="list-style-type: none"> 地球的課題の地理的考察（都市・居住問題、資源・エネルギー問題、環境問題） 期末考査 課題の提出
12			
1	学年 末考 査ま で 1 6	身近な地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> 日本の自然環境と防災 身近な地域の課題と地域調査（調査テーマの設定、調査の実施、調査結果のまとめと発表） 学年末考査 プレゼンテーション
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<ul style="list-style-type: none"> 日頃から、新聞やテレビのニュース、Yahoo ニュースなどから世界や日本各地で起きていることを「知る」習慣を身につけておく。そうすることによって授業で取り扱う内容を「自分ごと」としてとらえることに近づき、「深い学び」に繋ぐことができる。 定期テストについては計画的に進め、資料やグラフの読み取りは授業内で理解しておく。

教科名	理科	科目名	化学基礎	履修クラス	1年全クラス	
				担当者		
使用教科書		「高等学校 改訂 化学基礎」第一学習社			履修単位数	2
副教材等		「改訂 Let's Try Note 化学基礎 Vol.1～3」東京書籍 「フォトサイエンス化学図録 三訂版」数研出版				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
科学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、科学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。	定期考査・小テスト・実験レポートやノートなどの提出物および授業の取り組み状況を総合的に判断する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 12	物質の構成	物質の成分と分離 物質の構成と元素 物質の状態変化と熱運動
5		物質と化学結合	原子の構造 電子配置と周期表
6	期末考査まで 14	物質の構成	イオン結合・イオンでできた物質 分子と共有結合、構造式 共有結合でできた物質
7		イオンとイオン結合	金属結合 結晶の比較
9	中間考査まで 14	物質の変化	原子の相対質量と原子量・分子量・式量 物質と化学の基本法則 溶解と溶液の濃度 化学変化と化学反応式の量的な関係
10			
11	期末考査まで 14	物質の変化	酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩 中和滴定と滴定曲線
12			
1	学年末考査まで 16	物質の変化	酸化と還元 酸化剤・還元剤 金属のイオン化傾向と反応性・電池の仕組み 酸化還元反応の応用
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
理科の授業では板書を写すだけでは理解できない。しっかりと自分の頭で考えながら、授業時に教員の言ったことをメモし、自分のオリジナルノートを作る意識で取り組んでほしい。家庭学習では授業中にやった練習問題や購入した問題集を自分で解いておくこと。計算問題などは答えだけ覚えても無駄である。何度も練習問題に取り組むことで解き方をマスターすること。また、実験を実施した際のレポートも重要な家庭学習の一つである。提出しない場合は成績に大きく影響する。

教科名	理科	科目名	生物基礎	履修クラス	1年全クラス	
				担当者		
使用教科書	「改訂 高等学校 生物基礎 B i o L o g y」 第一学習社			履修単位数	2	
副教材等	「クリア生物基礎」 第一学習社 「スクエア最新生物図説」 第一学習社					

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
生物や生命現象に関する関心・探求心を高め、生物学的な探究能力を身につけさせる。生物の構造や種の維持などに見られる共通の法則性や多様性を学ぶ。実験を通し、その目的・方法の理解を深める。	様々な現象や法則性・多様性について理解できているか否か、定期考査を行い、評価する。実験においてはレポートを課し、実験結果についての考察が十分になされているか否かを中心に、提出状況・内容を評価する。また授業で課す提出物についても評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 12	生物の多様性と共通性	オリエンテーション、 ・顕微鏡の使い方、生物のスケッチの方法について ・マイクロメーターについて ・細胞の機能と構造 原核生物と真核生物
5			
6	期末考査まで 14	生命活動とエネルギー 遺伝子とそのはたらき	エネルギーと代謝、代謝に関わる酵素、生体内におけるエネルギー変換 ミトコンドリアと葉緑体の起源 生物と遺伝子、正確に伝わる遺伝情報、DNAの情報、ゲノムと遺伝情報
7			
9	中間考査まで 14	遺伝子とそのはたらき	遺伝情報の分配、細胞分裂とDNAの複製、細胞周期とDNAの複製 遺伝情報とタンパク質の合成、遺伝情報の流れ、転写、翻訳 遺伝子の発現と生命現象
10			
11	期末考査まで 14	生物の体内環境の維持	体内環境、体内環境の特徴、心臓と血液循環、体内環境を調節する器官 体内環境の調節、自律神経による調節、内分泌系による調節 自律神経系とホルモンによる協同作業 免疫 自然免疫、適応免疫、免疫とヒト
12			
1	学年末考査まで 16	生物の多様性と生態系	植生の多様性と分布 植生と生態系、植物の遷移、 気候とバイオーム 地球上の植生分布、陸上のバイオーム 生態系とその保全 生態系でのエネルギーの流れ、生態系での物質の循環 生態系のバランスと保全 生物多様性の保全
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
断片的な知識をただ蓄えるのではなく、それらを総合的に理解し、自然界の奥にある法則性を探究することにより自然を理解することが必要である。 実験・実習を行う際には、その意味・目的を理解し、主体的に取り組むこと。また実験後のレポート作成も重要な学習である。自学・自習の一環としてしっかりと取り組むこと。

教科名	情報	科目名	社会と情報	履修クラス	1年全クラス	
				担当者		
使用教科書	高校社会と情報 新訂版(実教出版)			履修単位数	2	
副教材等	全商情報処理検定問題集3級(実教出版)					

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器やインターネットなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に参画する態度を育てる。	◎定期考査・学習内容に則した製作物・出席状況・授業態度で総合的に評価する。 ○熱心に取り組み、課題が解決できたか。 ○詳細まで理解し、妥協せずに取り組んだか。

年間授業計画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 1 2	◎情報社会 の課題と情 報モラル	1 「社会と情報」を学ぶにあたって
5			2 個人情報とその保護 3 知的財産権の概要と産業財産権 4 著作権と著作物の利用 5 ワープロソフトによる表現
6	期末 考査 まで 1 4	◎情報安全 問題解決	6 表現の工夫
7			7 プレゼンテーションの方法 (1) PowerPointの使い方 (2) 各テーマによる課題製作 (3) 課題発表 (4) 相互評価
9	中間 考査 まで 1 4	◎問題解決	10 情報の整理と管理
10			11 分析のための工夫 12 表とグラフの活用 13 表計算ソフトによる表現
11	期末 考査 まで 1 4	◎デジタル 化	14 デイジタル画像
12			15 数値や文字の表し方 16 音、色、画像のデジタル化 17 情報機器を利用した画像加工
1	学年 末考 査ま で 1 6	◎情報の活 用と表現	18 webページによる情報発信
2			(1) htmlの書き方
3			(2) 作成テーマの決定 (3) 課題製作

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
○理論的な内容や法律関係の内容も扱うため、プリントなどを配布して授業を進めていく。難しい内容も含まれるが、身近な話であることを意識して授業を受けることを心掛けてください。 ○コンピュータ操作の実技も行うため、中間モニターを良く見て、説明を聞いてから作業に移ること。 ○課題は授業内で行うことを原則とし、放課後および家などへの持ち帰りの作業は禁止とする。 ○その他、授業等に関係ないものを机の上に置かないようにすること。

教科名	保健体育	科目名	保健	履修クラス	1年全クラス	
				担当者		
使用教科書		現代高等保健体育 大修館			履修単位数	1
副教材等		図説現代高等保健 大修館				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 各学期の期末考査の素点、提出物、授業態度等を総合的に評価する。 3回の期末試験の合計点が、学年平均の1/2を下回った場合は原則として単位未修得とする。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 6	現代社会と健康	私たちの健康のすがた 健康のとらえ方 さまざまな保健活動や対策 生活習慣病と日常の生活行動
5			
6			
6	期末考査まで 7		喫煙と健康 飲酒と健康 期末考査
7			
9	中間考査まで 7	現代社会と健康	薬物乱用と健康 医薬品と健康 感染症とその予防 エイズとその予防 意志決定・行動選択 欲求と適応機制
10			
11			
11	期末考査まで 7		心身の相関とストレス ストレスへの対処 自己実現 期末考査
12			
1	学年末考査まで 8	現代社会と健康	交通事故の現状と要因 交通社会における運転者の資質と責任 安全な交通社会づくり 応急手当の意義とその基本 心肺蘇生法 日常的な応急手当 期末考査
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)					
<ul style="list-style-type: none"> 授業中は私語を慎み、積極的な態度で臨む。 板書は確実にノートに記録し、復習のための資料として活用する。また、欠席した際にはその日の授業内容を確認し、ノート・プリント等も補てんしておく。 課題、レポート等提出物は期日までに提出する。 					
教	保健体育	科	体育	履修クラス	1年男子全クラス

科名		目名		担当者	
使用教科書	なし			履修単位数	2
副教材等	「ステップアップ高校スポーツ」 大修館				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> 各種運動技能や知識の習得 自主的精神に満ちた、心身ともに健康な体力づくり 生涯体育の実践者の育成 	①準備・片付けを含め、いかに積極的・自主的に取り組んでいるか②技能の習熟度③出欠席、以上の3点を踏まえ総合的に評価する。なお、届け出のある欠席でも、欠時数が標準授業時数の1/5を越えた場合には、原則として単位の修得は認めない。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 14	陸上 新体力テスト	50M走・100M走 握力、上体起こし、体前屈、反復横とび、持久走、50M走、立ち幅跳び ボール投げ
5			
6	期末 考査 まで 20	体育祭練習 剣道 縄跳び	学年種目、全員リレー 礼法、基本打突、仕掛け技、応じ技、地稽古 順回旋（両足、かけ足、前後）、側振綾とび、綾とび、交差とび、スキップ とび、二回旋、速綾とび、連続技
7			
9	中間 考査 まで 20	サッカー 剣道	キック、トラップ、ドリブル、対人技能、戦術練習、ゲーム 礼法、基本打突、仕掛け技、応じ技、地稽古
10			
11	期末 考査 まで 20	サッカー 剣道 持久走	グループ戦術、ゲーム 仕掛け技、応じ技、連続技、地稽古、試合 ペース走、3000Mタイム測定
12			
1	学年 末考 査ま で 21	持久走 バスケットボ ール	ペース走、3000Mタイム測定 パス、キャッチ、シュート、ドリブル、 オフense・ディフェンスフォーメーション、戦術練習、審判法、ゲーム
2			
3			

担当者からのメッセージ（授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等）					
<ul style="list-style-type: none"> 活動に際しては、互いを尊重し合う気持ちを持つとともに、ルール・マナーの尊重はもちろんのこと健康状態に留意し、怪我など発生しないよう注意する。 体育着については、学校指定のものはないので、一般的に運動着として適した伸縮性のあるものを着用する。装身具は一切身に付けない。 長期見学の場合は診断書等の書類を提出した上で、見学ノートを作成し毎時提出する。 					
教	保健体育	科	体育	履修クラス	1年女子全クラス

科名		目名		担当者	
使用教科書	なし			履修単位数	2
副教材等	「ステップアップ高校スポーツ」 大修館				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動技能や知識の習得 ・自主的精神に満ちた、心身ともに健康な体力づくり ・生涯体育の実践者の育成 	①準備・片付けを含め、いかに積極的・自主的に取り組んでいるか②技能の習熟度③出欠席、以上の3点を踏まえ総合的に評価する。なお、届け出のある欠席でも、欠時数が標準授業時数の1/5を越えた場合には、原則として単位の修得は認めない。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 14	陸上 新体力テスト	50M走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ 握力、上体起こし、体前屈、反復横とび、持久走、50M走、立ち幅跳び ボール投げ
5			
6	期末 考査 まで 20	体育祭練習 ダンス 縄跳び	学年種目、全員リレーの練習 基本動作、集団演技 順回旋（両足、かけ足、前後）、側振綾とび、綾とび、交差とび、スキップ とび、二回旋、速綾とび、連続技
7			
9	中間 考査 まで 20	ダンス バスケットボ ール	基本動作、集団演技 パス&キャッチ、シュート、ドリブル オフェンス・ディフェンスフォーメーション、戦術練習
10			
11	期末 考査 まで 20	ダンス 持久走	集団演技 15分間ペース走、2000Mタイム測定
12			
1	学年 末考 査ま で 21	ダンス 持久走	集団演技、演技発表 15分間ペース走、2000Mタイム測定
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<ul style="list-style-type: none"> ・活動に際しては、互いを尊重し合う気持ちを持つとともに、ルール・マナーの尊重はもちろんのこと健康状態に留意し、怪我など発生しないよう注意する。 ・体育着については、学校指定のものはないので、一般的に運動着として適した伸縮性のあるものを着用する。装身具は一切身に付けない。 ・長期見学の場合は診断書等の書類を提出した上で、見学ノートを作成し毎時提出する。

教科名	芸術	科目名	音楽 I	履修クラス	1年必履修選択	
				担当者		
使用教科書		MOUSA 1 (教育芸術社)			履修単位数	2
副教材等		特になし (必要に応じてプリントを配布)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
生涯にわたり音楽を愛好する力を育てると共に、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばすことを目標とする。授業を通して他を思いやる心を育て、聴く耳を養い、仲間と共に何かを創り上げる喜びや感動を味わってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱・器楽・リズム打ちなどの実技試験 ・記録カード等の提出 ・授業態度 (欠時・遅刻を含む) 以上の観点から総合的に判断をして評価を行う。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 12	○オリエンテーション ○校歌 ○混声合唱 ○リズム打ち	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の授業について説明をし、パート分けなどを行う。 ・校歌を斉唱できるようになる。 ・発声の基礎を身につけ、声を出す楽しさを知る。 ・混声合唱を通してアンサンブルの力を養う。 ・四分・八分の音符と休符を用いたリズム打ちを行う。
5			
6	期末 考査 まで 14	○読譜 ○鑑賞 ○音楽史 ○楽典	<ul style="list-style-type: none"> ・ト音記号の基本的な音名を理解する。 ・様々な楽曲を鑑賞し、自分なりに批評する。(管弦楽曲の学習) ・西洋音楽史について、大まかな時代と音楽の形式について理解する。 ・音楽の基礎的なきをまりを、楽譜を読みながら確認し、理解する。
7			
9	中間 考査 まで 14	○日本音楽 ○混声合唱 ○ギターの基礎 メロディー奏 コード伴奏	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の音色に触れ、基本的な奏法を身に付ける。 ・1学期に学んだことを活かし、ハーモニーを重視しながら主体的に合唱を創り上げる。 ・ギターの各部の名称や基本的な奏法を習得する。 ・アポヤンド奏法を用いてメロディーを演奏する。
10			
11	期末 考査 まで 14	○リズム打ち ○読譜 ○鑑賞 ○楽典	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なコードの弾き方を習得しメロディーに合わせて伴奏をする。 ・1学期からさらに発展した内容のリズム打ちを行う。 ・ヘ音記号の基本的な音名を理解する。 ・様々な楽曲を鑑賞し、自分なりに批評する。(器楽独奏曲)
12			
1	学年 末考 査ま で 16	○合唱祭の練習 ○混声合唱 ○まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱祭に向けて、課題曲や自由曲を取り上げる。 ・主体的に合唱を創り上げる。
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<ul style="list-style-type: none"> ・題材に対して毎時間真剣に全力で取り組むこと。各題材での積み重ねが大切です。 ・合唱やアンサンブルではクラスで協力する姿勢を常に心がけること。クラスの和を乱すような行為(私語・怠学など)は減点の対象とする。 ・教室移動があるため、遅刻・忘れ物には特に注意すること。 ・全ての活動に積極的に参加し、音楽を楽しむこと。 ※取り上げる題材や内容は、進度や状況などにより追加・変更することもある。

教科名	芸術	科目名	美術 I	履修クラス	1年必修選択	
				担当者		
使用教科書	「 高校生の美術 1 」 日本文教出版			履修単位数	2	
副教材等	課題に応じて購入。年度初めに教材販売を行う（一人 4000 円程度負担）					

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> ・美術の幅広い分野を通し、美術を愛好する心情を育て、創造的な表現力や発想力を育てる。 ・それぞれの分野の基本的理解と基礎力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度ならびに各単元の課題提出、プリント等の提出にて行う。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 8	○オリエンテーションならびに手のデッサン（4h）	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介を行い授業集団に馴染むと共にリラックスして実技表現ができるよう環境を整える。 ・鉛筆による素描を通して、各自の描画力・基本的デッサン力を見る。（学習内容）鉛筆で画用紙に手の写生。
5		○平面色彩構成（6h）	<ul style="list-style-type: none"> ・アクリルガッシュを使って、野菜や果物の構成表現を行う。（学習内容）アクリルガッシュ絵の具の使い方 色彩の効果
6		○立体表現（8h）	<ul style="list-style-type: none"> ・スタイロフォームヘカーヴィングを行い観察力と立体感覚を養う。（学習内容）煮干しの実物をモチーフに着色まで行う。
7			
9	中間 考査 まで 10	○絵画とデザインの構成（6h）	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている作品を切り取り、貼り付けた用紙の背景を自ら構成する。（学習内容）自らの趣向により主体的に作品選出し、自由で魅力的な構成を工夫する。
10		○彫刻表現（8h）	<ul style="list-style-type: none"> ・名作をモチーフとした飾り板への浮き彫りとアクリルガッシュによる着色。（学習内容）彫刻等の使用法・題材選択の主体的審美眼の起動
11	期末 考査 まで 10	○陶芸（6h）	<ul style="list-style-type: none"> ・信楽粘土を基本とした陶芸作品を制作し、焼き物に親しむ。（学習内容）立体のとらえ方、やきものの基本的な知識を学ぶ。
12			
1	学期 末 考 査 ま で 16	○絵画表現（16h）	<ul style="list-style-type: none"> ・クロッキーの実際とイーゼルやスケールなどの道具の使用方法を理解し、油絵具を使って絵画表現を学ぶ
2			<ul style="list-style-type: none"> （学習内容）油絵具の基本的な扱い方を学ぶ 構図や空間、立体表現、色の混色などを学ぶ。
3			

※年間を通して視聴覚教材とプリントを効果的に使用し、古今東西の美術の名作品に触れさせる鑑賞学習を行う。

担当者からのメッセージ（授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等）
<p>1年間を通し、様々な分野に取り組みます。全て基本的な内容で、1学年を踏まえて2学年では発展的な内容を行いますので、1年間しっかりと授業に取り組んでください。</p> <p>美術分野への進路希望者はもちろん、そうでない人にも美術が人間生活の営みに不可欠な柱であることを理解する内容を目指します。主体的で総合的な感性の動員を求めます。</p>

教科名	芸術	科目名	書道 I	履修クラス	1年必履修選択	
				担当者		
使用教科書		「書 I」光村図書			履修単位数	2
副材料等		なし				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
書写能力を高め、文字について正確に理解し、書を愛する心を育てる。 古典法帖の臨書を通して書之美を理解し、表現力、鑑賞力を高める。	各時間、単元毎の提出物による採点。 授業態度、積極性、習熟度、完成度。 (用具の準備も含む)

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 1 2	ガイダンス 楷書の学習	用具、用材について正しく理解し、使用する。 授業の内容について。 基本用筆、古典法帖について理解。 「九成宮醜泉帖」の臨書
5			
6	学期 末ま で 1 4	楷書の学習	「孔子廟堂碑」 「雁塔聖教序」 「顔氏家廟碑」 「牛橛造像記」 他の臨書
7			
9	中間 考査 まで 1 4	行書の学習	「集王聖教序」 「蘭亭序」 の臨書
10			
11	学期 末ま で 1 4	行書の学習 創作作品の 製作	「蘭亭序」は全臨(半紙) 「風信帖」の臨書 創作作品の製作
12			
1	学年 末ま で 1 6	隷書の学習 かなの学習	「曹全碑」の臨書 単体、連綿、変体かな 「蓬萊切」 「高野切第三種」 他の臨書
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
必要な筆、紙、墨、など用具を揃えること。途中でなくなった場合に補充するなど基本的なおろそかにしない。 実技科目であるので、とくに用具、用材の忘れ物は厳禁である。また、貸し借りをしないこと。 時間内、精一杯努力し、完成度の高い作品を目指すこと。